



平成22年11月26日

### アフリカ・ガーナ大学と共同で新規抗マラリア薬開発へ

平成22年4月に文科省概算要求プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」における国際交流事業がスタートし、中国（3大学と1研究所）、韓国（2大学）、インドネシア（2大学）、タイ（1大学）、ガーナ（1大学）、及びインド（1研究所）の大学、研究機関と、難治性感染症を含む疾病の新規治療薬開発に向けた国際共同研究推進と人材交流に関する協力協定を進めている。

今回、岡山大学で長年行ってきた新規抗マラリア薬の臨床開発を、アフリカ・ガーナ大学と共同で進めることに合意した。

岡山大学とガーナ大学は新規抗マラリア薬の臨床開発を共同で行うことで合意しました。

マラリアは世界3大感染症の一つで、現在も既存の薬剤に効果を示さない多剤耐性マラリアが蔓延し、猛威を振るっています。

医歯薬学総合研究科（薬学系）・綿矢 有佑教授は、平成16年度より（独）医薬基盤研究所の支援を受け、環状過酸化構造を有する新規抗マラリア薬の創製研究を行っています。環状過酸化化合物は薬剤耐性マラリアに有効で、現在、世界的に問題になっている多剤耐性のマラリアにも効果を発揮することが判りました。既に、環状過酸化化合物の薬効・毒性・安全性試験を終え、臨床試験を行うための最終評価をしています。そこで、今後の医薬品開発に必要な臨床試験は、岡山大学と大学間協定を締結しており、且つ、マラリアの流行地であるため臨床試験に適しているガーナ大学と共同で行うことで合意しました。

医歯薬学総合研究科（薬学系）・金 惠淑准教授と香川弘昭岡山大学客員教授は、平成22年11月16日～20日、アクラ市にあるガーナ大学を訪問し、新規抗マラリア薬の臨床開発に向けて協議しました。ガーナ大学は、野口研究所の Daniel Boakye 教授（寄生虫病部門責任者）が窓口となり、「岡山大学とガーナ大学が共同で新規抗マラリア薬の臨床開発を実施し、マラリア撲滅に貢献したい」と述べました。

綿矢教授が開発している環状過酸化化合物が臨床試験に入るまでは、ガーナ大学が保有するアフリカの伝承薬物や研究ネットワークを駆使して、マラリアを含む難治性感染症の新薬シーズを探索し、臨床開発と併行することで、効率よく国際共同研究を実施することができます。共同開発によって得られる研究成果についても事前にガーナ大学と協議し、基本合意しました。ガーナ大学の Vice-Chancellor（学長に該当）・Ernest Aryeetey は「岡山大学とマラリアを含む感染症の撲滅に国際共同研究を遂行することができ、大変ありがたい」と述べました。

<お問い合わせ>

岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）

医薬品情報学講座 金 惠淑

（電話番号）086-251-7976

（FAX 番号）086-251-7974